



- ・伊場遺跡発見 70 年・浜松市博物館開館 40 年記念
特別展 「古代東海道駅伝展」
- ・催し物案内 「冬休み体験館」
小展示「道具たちの 100 年」

Hamamatsu City History Museum

昭和 24 年（1949）の伊場遺跡発見から今年で 70 年になるのを記念し、特別展を開催します。この展覧会では、古代の道を通して中央から各地へと浸透していった、新しい時代の新しい造形に着目し、伊場遺跡群を中心に遠江国および他の東海道諸国、そして都における発掘出土品と調査研究の成果を紹介します。

浜松市の伊場遺跡群は、地方で初めて 100 点を超える木簡が見つかったことで知られています。地方に関する古代の文献史料がほとんど伝わっていない中、伊場遺跡群での文字史料の発見は古代史学界に大きなインパクトを与えました。

調査と研究が進むにつれ、伊場遺跡群には飛鳥・奈良・平安時代の郡の役所である敷智郡家が置かれ、そして東海道の駅も付近に配置されていたであろうということが明らかになっていきました。では、古代における東海道とは、駅・駅伝とはどのようなものだったのでしょうか。この展覧会では古代の道と交通をテーマに、敷智郡、遠江国の姿や、他の地域との交流などについて探っていきます。



伊場遺跡発見 70 年・浜松市博物館開館 40 年記念

特別展 古代東海道駅伝展

- 会 期 令和元年 10 月 5 日（土）～11 月 24 日（日）
午前 9 時 ～ 午後 5 時 ※10 月 5 日（土）のみ一般観覧は午前 9 時 30 分から
- 休 館 日 月曜と祝日の翌日（ただし、祝日の月曜と 11/24 は開館）
(10/7、15、21、23、28、11/5、11、18)
- 観 覧 料 一般 500 円、高校生 200 円
70 歳以上、各種障がい者手帳をお持ちの方及び介添えの方 1 名まで半額
※（ ）内は 20 名以上の団体料金

主 催 浜松市博物館
後 援 静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、静岡県文化財保存協会





古代東海道の遺構（曲金北遺跡）写真提供：静岡県埋蔵文化財センター
現在は、グランシップが建っているところです。

古代東海道は、一直線で、最短距離を目指す

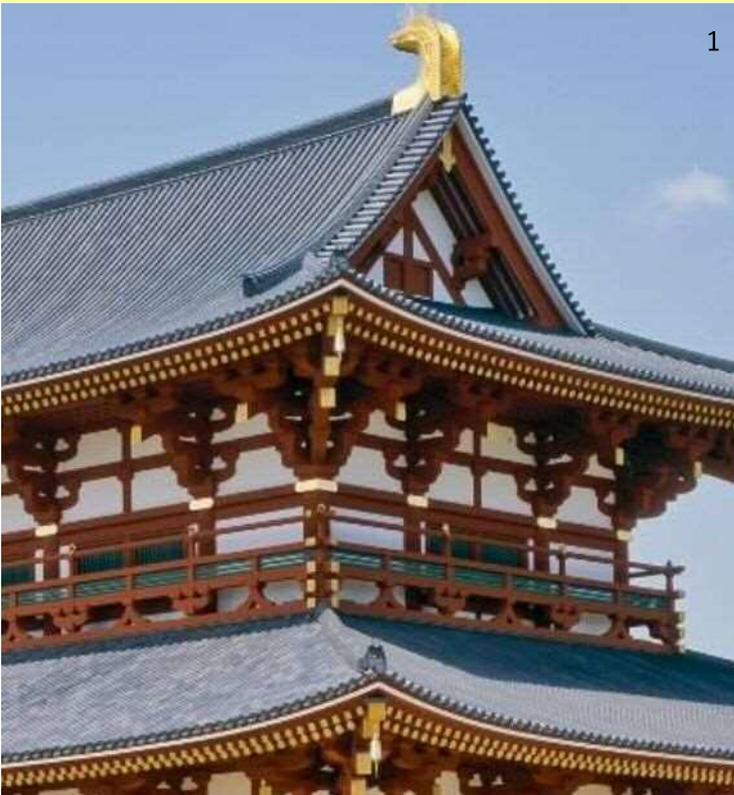
まがりかねきた
曲金北遺跡（静岡市駿河区）は、JR 東海の東静岡駅付近に広がる遺跡です。画面中央、縦方向にまっすぐ伸びているのが古代東海道の跡で、現代の東海道本線と並びあっています。道の両側には側溝が掘られ、路面は砂利で突き固められていて、路肩は拳大の石で保護されていたようです。路面幅は約 9 メートルで、江戸時代の東海道に比べて道幅が広く、直線的なのが特徴です。古代の東海道は谷間を埋めたり、丘を切り開いたりしてでも、できるだけ最短距離で地方の国々と都とを結ぶように、直線的に作られたようです。

場所や形を変えながらも、東海道という呼び名と東西交通に果たす重要な役割は、現在にしっかりと引き継がれています。

古代東海道は、都と東国を結ぶ道。だけど、道だけではありません

現代では、東海道というと、道路、街道のイメージが強いのではないかと思います。しかし、古代では道路だけではなく、道沿いの国々を指す地方行政の広域エリアのことも〇〇道と呼んでいました。東海道は、都とその周辺の地域である畿内より東の国々、現代の県名だと三重県から茨城県にかけての地域に当たります。東海地方という現代の区域名と似ていますが、東海道と東海地方は同じではありません。東海道諸国の国府を結ぶ道路を指すときは、区域名と区別するために東海道駅路と呼ぶこともあります。

「あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり」（万葉集）と詠われた奈良の都、平城京。都と地方の間では東海道を通じて人・物・情報が行き来しました。



1 2



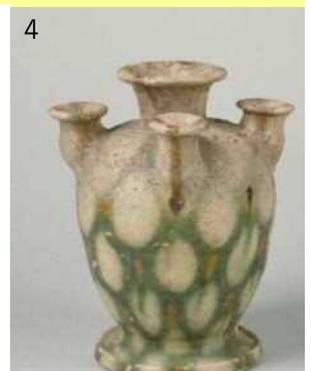
1 平城宮跡第一次大極殿 写真提供：奈良文化財研究所 / 2 法隆寺に納められた百萬塔 / 3 平城宮跡出土・鬼瓦 奈良文化財研究所蔵 / 4 薬師寺出土・奈良三彩壺 奈良文化財研究所蔵

※特別に記載がないものは当館蔵

3



4





伊場遺跡から、初めて木簡が出土したのはいつ？

今から約50年前の、昭和45年（1970）のことです。当時はまだ地方で木簡が見つかる例は少なく、調査・研究や保存方法などがしっかりと確立されていない中、調査員は手探りで調査を進めていきました。

見つかった木簡や文字が書かれた土器を整理したところ、中には「駅（驛）」「駅長」と書かれているものがありました。駅とは、江戸時代の宿場のような機能をもった拠点です。古代の東海道には、道沿いに一定の間隔で駅が置かれていました。その駅のひとつ、栗原駅（くりはらのえき）が、この伊場遺跡の近くにあったと考えられています。駅と駅を結び、馬と人を継ぎたててリレー方式で情報を伝えるのが、古代の交通制度である駅伝制なのです。



1 木簡が出土した伊場遺跡大溝の調査風景／2 伊場遺跡群出土木簡／3 「栗原駅長」と書かれた須恵器

会期中のイベント

※参加無料、当日直接会場へ、③④⑤は博物館観覧料が必要

- ① **記念講演会「古代東海道の官衙遺跡と交通」** **定員 160人（当日先着）**
10/26（土）13:00～16:30 会場／**浜松市地域情報センター**
展示会の内容を、もっと深く掘り下げてみたい方に向けた講演会
- ② **伊場遺跡群見学会**
10/12（土）10:00～12:00 会場／**伊場遺跡公園**（浜松市中区東伊場）※公共交通機関をご利用ください。
展示会場では伝わりにくい現地情報を、実際に伊場遺跡群を発掘した文化財課職員がご案内
- ③ **伊場遺跡群歴代発掘調査員によるギャラリートーク 駅伝** 14:00～15:00
10/19（土）、11/ 2（土）、11/ 9（土）、11/16（土）
埋蔵文化財調査のレジェンドたちが、出土品を前にして語る
- ④ **担当学芸員によるギャラリートーク（展示解説）**
10/16（水）、11/6（水） 14:00～14:30
鑑賞のポイントを伝える、やさしい展示解説
- ⑤ **ミニ鬼瓦づくり** **定員／午前・午後各20人（先着順）** **料金／350円** 実施協力／平城宮跡管理センター
11/3（日）文化の日 受付9:30～11:30、13:00～15:30
粘土をこねて平城宮跡・法華寺出土の鬼瓦をモチーフにしたミニ鬼瓦をつくってみよう！
簡単にできて、作りながら学べる体験

催し物案内 令和元年 10月～2年1月

月	休館日	展示	講座・体験
10	1 (火)～4 (金) 7 (月) 15 (月) 21 (月) 23 (水) 28 (月)	特別展 「古代東海道 駅伝展」 10/5 (土) ? 11/24 (日)	12(土) 伊場遺跡群見学会 かやぶき屋根の下で聞く 日本の昔ばなし 16(水)・19(土) ギャラリートーク 19(土)・20(日) 秋を味わおう 26(土) 記念講演会 (地域情報センター)
11	5 (火) 11 (月) 18 (月) 25 (月)～30 (土)	10/5 (土) ? 11/24 (日)	2(土)・6(水)・9(土)・16(土) ギャラリートーク 3(日) ミニ鬼瓦づくり 9(土) かやぶき屋根の下で聞く 日本の昔ばなし
12	1 (日)・2 (月) 9 (月) 16 (月) 29 (日)～31 (火)	小展示 「道具たちの 100年」	7(土) ほんわかイラスト年賀状講座 14(土) かやぶき屋根の下で聞く 日本の昔ばなし 21(土) 冬休み体験館 ～1/5 27(金) 味噌づくり体験
1	1 (水)～3 (金) 6 (月) 14 (火) 20 (月) 27 (月)	12/3 (火) ? 3/1 (日)	11(土) かやぶき屋根の下で聞く 日本の昔ばなし 25(土)・26(日) 昔の暮らし体験館

小展示 「道具たちの100年」

12月3日(火)

～令和2年3月1日(日)

電気・ガス・水道が使えるようになり、この100年間でわたしたちのくらしは大きく変わり、生活は便利になりました。

小学校3年生の社会科「古い道具と昔のくらし」に合わせて、昔の道具を展示します。

冬休み体験館

12月21日(土)～令和2年1月5日(日)

【12/29～1/3は休館】



もち焼き体験
お正月のおもちゃで遊ぼう
こま回し大会
木のおもちゃ絵付け体験
缶バッジづくり
クイズラリー



体験・講座には、事前の申し込みが必要なものがあります。

詳しくは、広報はままつ・博物館HPなどで、ご確認ください。

浜 松 市 博 物 館

だ よ り

Vol.38 No.2 通巻141号 2019年10月10日発行
静岡県浜松市中区蛸塚四丁目22-1 電話053-456-2208
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/>